

釣れ釣れなるままに

2007年思い出の釣行記 PART. 3

尻別岬のアブラコ



岩見沢釣遊会第3回大会 (交綸会合同大会)

- ☆開催日 平成19年06月03日
- ☆開催場所 磯谷～大平川
- ☆入釣場所 尻別岬
- ☆天候 晴れ 東風 (ヤマセ) 強い 波1m
- ☆釣果
アブラコ 462 mm ③/4
ホッケ 391 mm ②/3
カジカ ②/2

	アカハラ	③ / 4
	クロガシラ	1
	重量	5600g
☆成績	合計点数	1413点 (2魚種10匹)
		1313点 (2魚種5匹)
	成績	優勝
	持ち点	1点
	累計点	7点 (⑤①①)

他流試合

本年度の総会で札幌交綸会との合同大会をもつことが決定された。交綸会とは以前から会員レベルでの交流をさせていただいていたが、どちらの会も会員数の減少のために運営が厳しく、合同大会を開催しようということになったのだ。今回6月の大会は交綸会が主催する形で行い、9月の大会は釣遊会主催となる。財政状況の解決のためだけでなく、お互いの運営方法などを学び合い共に発展していくことが出来ればと願っている。



入釣範囲は磯谷からとなっているが、地図で調べると、尻別川に架かる橋の名が磯谷橋となっているなど、磯谷は広範囲になっており、精進川や尻別川が入るのが不明である。一応、第一の候補は尻別岬から能津登付近として、状況によってはや美谷長磯を想定しておく。釣遊会では6月初旬、さらに寿都港以北での大会を開催したことがないので不安はあるが楽しみでもある。又、今回は交綸会の審査規定である2魚種身長+10尾重量制なので10匹揃えられるかも課題である。私は2魚種身長5匹重量制の釣遊会では、目標を40cm+35cm+2.5kg=1000点を一応の目安にしているが、今回は1.5kg加算して1150点とした。

出発日、利用している釣具店でエサを購入するがイワムシが売り切れていた。しばらくは予約注文が必要となり、たとえ予約できたとしても一人一箱という限定付ということらしい。あわてて大型チェーン店に向かうが、ここしばらくの間、入荷していないとのことである。品薄のため入荷しても質が悪く、クレームが多くて消費者に満足いくものを提供できないというのだ。日本海の本アブラコはイワムシが絶対に欠かせない。イカゴロを増やしてアカハラねらいに切り替えようか・・・。

札幌から遠回りバスが迎えに来てくれて、午後7時半には出発した。会の冒頭に村岸交綸会長より格調の高い歓迎のご挨拶を頂き、事務局から開催範囲、締め切り時刻、審査

方法等の説明を頂いた。又、団体戦まで用意してくれて、組み合わせのためのくじ引きがあった。私はB組となったが、知った仲間内ではないので責任の重さも感じる。幸い交綸会幹事長である岩本満氏と同じ組だったので、「同じ組になれて光栄です。足を引っ張らないように頑張ります。」とエールを送った。しかし、岩本氏は「交綸会ニュースNo.1を見たのか？第1回の俺はボウズで参加点のみの成績だったんだよ」と返してきたが心強いことは確かである。

バスの中では岩本氏から釣り場の説明があった。さすが「つりしん北海道」の記者である。釣遊会にとっては未経験の地ということもあり、尻別川、弁天島カメ岩、幌別川、美谷長磯、五郎沢、朱太川、樽岸・・・などなど、最近の釣り場状況を含めて詳細に説明してくれた。締めくくりに「私の情報は50%信じてもいいが、後の50%は自分の力で切り開いてください」と謙遜されていたが、真に参考になるものだった。

オバケ

バス席で私の隣に座ったのは交綸会T氏である。彼は歌島のワッカナイ川周辺で大物クロガシラにねらいを定めているらしい。釣遊会では歌島川の左岸に大前事務局長を筆頭に、阿部、秦野、高橋氏が下りるので情報交換を勧めておいた。さらに、第2の候補として「オバケ」を考えているらしい。彼が言う「オバケ」とは釣遊会仲間がよく入る富浦大平盤のことではなく、磯谷にある町営牧場を流れるルウベツナイ川に架かる留宇別内橋前から出た磯のことらしい。堀内氏がそこに下りるとのことだ。

「オバケ」の通称はどこにでもよくある話だ。先の富浦大平盤のものは【たき火を取り囲み、少女達はその周りで踊っている】という噂だ。この近くでは弁慶岬の【若い恋人同士が結婚を望んだが、周囲の反対にあい、世を傷んで岬の断崖から飛び降りた】が有名らしい。黄金道路にある夫婦岩、鬼岩周辺にも「オバケ」が出ると聞いたことがある。そんな噂話のことなど知らない釣遊会仲間が鬼岩に入って爆釣したが、その話を聞いた以降は未だに行けないでいるのだ。私も「オバケ」のようなアブラコやカジカを夢見て鬼岩に入ったことがあるが、背筋が何度か寒くなるだけで狙いは達成できなかった。大漁に恵まれた釣り人が、他の釣り人が入れないようにと意図的に噂を流したのではあるまいかと思っているが、真偽の程は如何であろう。

ギョギョライトが点々と

開催範囲は、尻別川に架かる磯谷橋の手前から大平川河口の駐車帯までと確認できた。私は風で潮回りもいいので、当初の予定通り尻別岬に入ることにする。前の座席に座った佐々木氏が私と同じように尻別岬の航空写真を覗き込んでいる。彼が行くとなると心強い。

交綸会の南氏からは救命胴衣をかshiteいただく。尻別川右岸の砂浜でアカハラを狙うので救命胴衣は必要がないというのだ。彼が所属するもう一つの釣り会ではアカハラが対象外になっているが、釣りの対象としては非常におもしろいので、今回はアカハラ釣りを堪

能したいようだ。彼は最近、バクダンに特殊なフェロモンを混ぜて魚を魅了しているらしい。

本会の嵐会長も同じように尻別川右岸に向かうということで、共に磯谷橋の手前で降りていった。会長のバクダンにも特殊なものが練り込んでいるらしく、どちらのバクダンが威力を発揮するのだろうか審査が待ち遠しい。彼らの話によると、アカハラは右岸では間違いないところだが、尻別岬でも、大物は無理でも小物ならいるらしい。

能津登トンネル東口手前の十字路で佐々木氏と共にバスから降ろしてもらおう。佐々木氏も初めてなのだが、迷う素振りも見せずにアスファルトの旧道を進んでいく。彼の後をついて、岬先端部のトンネルの手前右側の空き地からなだらかな崖を下り、平盤底の水たまりを漕ぎ渡り、サラシ平盤を掘削して四角に切った舟入澗の縁を進んだ。道々、佐々木氏は、「今日は潮が低く海も凪いでいる。尻別岬先端に入る機会は滅多に訪れないが、本当にラッキーだ」と話して聞かせる。しかし、岬先端部一面には青白いギョギョライトの光が点々と見えてきた。そこで、佐々木氏は即座にその場を諦め、掘削したプールを迂回して左隣の盤に向かった。私は、躊躇しながらもそのまま進むと、人影は見えないのだが、平盤には10本の竿が並んでいる。先行者は場所確保のために竿を設置した後、車の中で仮眠しているのであろう。嗚呼！本日の目標は達成できないだろうなと思いつつも、一番左端の狭い所で荷を下ろした。



最初の入釣場所。10時方向の中投でアブラコが出る。9時方向の左の溝でカジカが出る。先行者3名が見えるが、その先にあるサラシ根際は尻別川の流れが注ぎ込んでおり、手を出せそうもないと考えていたが、先行者が留守の間にと移動してみる。本日の婿となったアブラコが上がってからは先行者が幅寄せしてきて竿を出せなくなったので、最初の場所に戻って遠投する。重量のあるカジカを追加したが、8時過ぎに先行者3人が引き上げたので、その前にある潮目で本日の嫁となったホッケが出る。



すぐ右手の先行者の竿とオマツリしないようにと、9時の溝にチョイ投げ、10時方向

に向かって2本の竿を中投する。先端に先行者がいたのははなはだ残念ではあるが、ひとまず竿を出し終えたのでホッと一息する。しかし、アタリは出ず、その一息があまりにも長くなった。アタリが出るのを待って何度もバクダンを打ち返していた1時頃、ようやく竿先にチョコチョコというアタリが出た。しかし、それ以上は食い込まない。その状態が何度か続いたが、ホッケかアカハラだろう。食い込みやすいようにと、エサを大ぶりのカツオからホッキとエビに、そして、より繊細な天秤仕掛けに替えてみた。

思った通り、ようやくチョコチョコとアタリが出た後にクッ、クッと竿先が入った。アタリの主は30cmほどのアカハラだった。続いて35cmほどのものが来た。その後、アブラコの33cm、溝の中に打ち込んでいた竿にもカジカ33cmが出た。小物ばかりだが何とか様になってきた。

移動は正角軍

背後の山並みの陰から満月が出て来て一面を照らし始めた。もう一度、周辺を探索する。右先端の先行者が打っている竿の道糸の方向を確認すると、右端の岩盤底の川筋に沿って竿を出すことができそうで、先行者が留守の内にと一歩下がって低いサラシ平盤で竿を出すことにした。

すぐに、アカハラがゴロに挨拶してくれてよしよしこれからと思っていると、先行者3名が戻ってきた。先行者は遠慮してなのか、私が打っている方向には打ってこないのをそのまま続けることにする。するとその先行者の足下からアカハラとクロガシラがダブルで来た。先行者は早速、駆け寄って来て獲物を確認し、同じ所に向かって少し幅寄せしてきた。右の離れ平盤の際に打ち込んでいた竿に三段引きとなる明確なアタリが出た。アブラコ35cmがでた。少しずつ私が打つ場所が狭くなってきた。佐々木氏が様子を見にやってきた。彼の獲物はまだ皆無でこれからのようである。尻別川右に入った嵐氏に電話してみる。彼の言うことだからピンコというのは眉唾物だと思われるが、アカハラは順調に来ているようだ。



佐々木氏が自分の釣り場に戻ってすぐに、今度は竿尻を持ち上げるような大きなアタリが出た。中央の隠れ根の先にイソメを房掛けして遠投しておいた竿だ。先程からいいアタリがあってもその岩に根掛かりしていたので、左に大きく移動して隠れ根を避けて巻き取る。その根を越えたところ

で、今度は右に移動しながらようやく取り込んだ。獲物は丸々と太ったアブラコ45cmほどのものだった。

これを見た先行者が私の打っている方向に大きく幅寄せしてきたので、私の打つ場所がなくなった。6時、規定の10匹揃ったのを期に最初の場所に戻ることにする。

佐々木氏が隣の盤からさらに奥の湾洞へと移動していった。私は、バクダンもイカゴロもほぼ使い切ったので3本の竿とも全て遠投にした。そこから、入れ替えの出来るホッケが2本来た。さらに重量のあるカジカ35cmを追加して入れ替える。

8時になって先行者が引き上げ、前の盤が空いたのでさらに移動し、そこで本日の嫁となるホッケ39cmが上がった。

釣遊会での審査結果は、

審査結果

優 勝	鹿島釣狂	1413点 (アブラコ462mm+ホッケ 391mm+5600g)	尻別岬
準優勝	嵐 光博	1318点 (アカハラ426mm+ホッケ 360mm+5320g)	尻別川右
3 位	相馬義博	1300点 (アブラコ393mm+ホッケ 379mm+4800g)	折川 右
4 位	吉井 博	1157点 (アブラコ376mm+ホッケ 355mm+4260g)	大平川左
5 位	大前健治	1112点 (アブラコ408mm+カレイ 336mm+3680g)	歌島川左

であった。私は、一応の目安とした1150点を大きく上回り、優勝することが出来た。最後のホッケが決め手となったらしい。歌島川に入った高橋昭吾氏が、彼の狙い通り40cmオーバーのクロガシラを手にしていった。

今回招待された釣遊会が、優勝、準優勝、3位、身長賞と独占した。釣遊会大会では岩本氏に参加いただいているが、その度に彼が優勝をさらっていたのでその恩返しが出来たというものだろう。そして、釣遊会主催の9月の大会では、交縁会の巻き返しを楽しみに行ながらバスの中で眠りについた。



婿アブラコ46.2cm 嫁ホッケ39.1cm



帰りの崖を登り切った所で佐々木氏（ほぼ中央）を待つ。入釣場所は尻別岬先端部にある離れ平盤の左端と右端。入釣時は簡単になだらかな坂を下ったのだが、帰りは急勾配な崖（坂ではない）を上ることになった。

↑ 当初の先行者 ↗ 幅寄せしてきて打てなくなる。

↑ 私①③ ↑ 私② ↑ 私④

↑ 佐々木氏

【つれづれ】

○堀内氏がバスから降りるときに秦野氏のバツカンを間違えて持つ。釣り場についてバツカンを開けたときに気付いたということだ。秦野氏は釣果がよかったからか、意に介していない。おそらく、それぞれのエサの秘密を覗き込みしたに違いない。

○私のすぐ後に来た二人の釣り人が先端のエンカマにタモ網をさし入れて何か掬った。白い腹が見える大物だ。近づいてみると、45cmほどのアカハラ2本である。大会のために事前に釣り上げておいたものだろうか。堂々とバツカンに入れて能津登方向に消えていっ

た。後に釣り場に戻った先行者が私にエンカマにアカハラがいなかったかを尋ねてくる。釣り上げたのをエンカマに放しておいたがいなくなっているというのだ。事情を説明したが納得してくれただろうか。彼らの会では、アカハラは審査対象外というのだが・・・。

○交綸会は2魚種身長10匹重量制+参加点200なので正式発表は1613点である。釣遊会の2魚種5匹重量制に換算してみる。アブラコ46と35、カジカ35と33ホッケ39で重量は4kg程度と考えると $462 + 391 + 400 = 1253$ となる。

○妻が息子の慰問に帯広に出かけた。娘から夕食の誘いがありお富さんで酒を飲む。